

学校行事

勤劳生産・奉仕の行事

指定校番号	28049	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	市川 洋	生徒指導主事	大久保 真人
-----	--------------	----	------	--------	--------

取組事例名 『阿品台クリーン活動』

取組のねらい 『キーワード人間関係作りと自己有用感』

- ・数年後の中学校生活を踏まえ、他校種の児童生徒との人間関係づくりを図る。
- ・奉仕の心や自己有用感を育てる。
- ・自分たちが生活している地域に愛着を持たせる。

取組の具体的内容 『キーワード地域に愛着を』

事前指導

- ・小学生はクリーン活動のねらいと活動について知り、どのような気持ちで臨むかを考え、活動の準備をする。小学生の代表はあいさつの内容を考える。
- ・中学生は開会式・閉会式の進行、グループ活動の進行の仕方を学び、小学生とどのように活動していくかを考える。

クリーン活動

- ・小学校に集合し同じグループで顔合わせをする。簡単なオリエンテーションをしてお互いの顔と名前を覚える。
- ・それぞれの掃除場所に移動して、中学生のリーダーシップのもとに清掃活動をする。

事後指導

- ・3つのねらいをもとに活動の振り返りをして、お互いの感想文や手紙などで交流する。

取組の課題・創意工夫 『キーワード中学生が主体となって』

創意工夫

・会の運営は中学生が主体的に行う。開・閉会式の司会進行は中学生がする。グループ活動では、中学生のリーダー、副リーダーがグループをまとめ、オリエンテーションをしたり清掃活動の指示をしたりする。中学生はグループでオリエンテーションをするときに、どのように自己紹介するとお互いのことが分かり合えるかを考えたり、清掃も中学生と小学生のペアやグループを作ったりと工夫した。



・クリーン活動は1学期に1回、2学期に1

回あるが、最初は中学2年生と小学6年生が行い、2回目は中学1年生と小学5年生が行う。このペアは来年、再来年に中学1年生と3年生として同じ中学で生活することになる。しかし、今年度は1学期のクリーン活動が雨のために中止となり1回しかできていない。

取組の課題

・3校の児童が集まる機会を年に何度も設定するのが難しい。1回の活動も阿品台西小学校が少し離れたところにあるので、移動時間がかかりかかるため活動時間が正味1時間くらいしか取ることができない。

取組の成果（効果）『キーワード自己有用感』

・中学生が出身小学校に来て、後輩と一緒に掃除をしたり、掃除を教えたり、リーダーシップを発揮することで、自分の成長を感じ、自己有用感を高めている。活動後に後輩からありがとうのメッセージや手紙を受け取り、さらに自己有用感を高め、自信をつけている。

・中学2年生と小学6年生と一緒に活動する中で、入学後の部活勧誘の話をする中学生がいたり、誘われた小学生も中学での知り合いが一人増えて、入学後の安心感にもつながったりということが例年よく見られる。小学生からも中学校の疑問なども聞くことができている。



今後の展開『キーワード活動の広がり』

・中学生が主体となって、小学生と一緒にできる活動を工夫して、さらに広げていきたいと考えている。9月に中学3年生が出身小学校に出向き、掃除と一緒にして、掃除の仕方を教える出前掃除を実施した。オープンスクールでは、小学6年生に中学生が部活の体験をさせてくれている。2月の入学説明会では生徒会が中学校生活について話をしてくれる予定になっている。以前は授業の交流も実施したことがあるのでそのことも今後検討していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード定例の活動にする』

・阿品台クリーン活動は阿品台3校が不登校対策指定校になってからずっと続けられている。10年間の積み重ねは大きく、毎年必ず行う行事として定着している。児童・生徒も行うことが当然と思っている。ここ数年は地域の方や保護者も参加し（今年度は10名）、活動の幅が広がっている。

指定校番号	28071	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立古田中学校	校長	福本隆寿	生徒指導主事	龍田将登
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『ふれあい地域清掃活動』の取組

取組のねらい『地域交流で豊かな心を育む』

- 清掃活動を通して、生徒・保護者・教職員・地域指導者等の相互の交流を図る。
- 美化意識の高揚を図るとともに、勤労・奉仕の精神を培い、豊かな心を育む教育活動の一環とする。

取組の具体的内容『小中連携・地域連携』

- 中学校の生徒、保護者に呼びかけてボランティアを募り、校区の4小学校において行われる地域清掃活動に参加した。
- 昨年度までは、古田中学校において行う「ふれあい地域清掃活動」を、古田小学校と合同で行い、清掃活動を通して、小中連携、地域連携を行っていた。本年度は、昨年度と同様の活動と合わせて、生徒が自分の出身小学校に帰り、地域清掃活動を行う取組に広げて実施した。
- 実施については、広島市環境局業務第一課美化係のクリーンボランティア支援事業に申し込み、清掃用の軍手・ゴミ袋の提供、ごみの収集について支援を受けた。
この取り組み方法は、生徒指導主事が各小学校に情報提供し、校区の4小学校区のうち、高須小学校区の取組において、同じ方法で支援を受けている。
- 清掃ボランティアは、文書で生徒、保護者に呼びかけ、古田中・古田小学校区では197名、古田台小学校区では50名、山田小学校区では17名、高須小学校では56名の生徒・保護者が参加した。



取組の課題・創意工夫『ふるさとをきれいに』

- 出身の小学校区に帰って活動することについて、生徒には、「ふるさとをきれいにする」という意識を持たせるようにした。
- 生徒の活動の様子については、すぐにホームページに掲載し、地域や家庭で評価してもらえるように工夫した。

各地域清掃に参加させていただきました！
12月6日

今年度の各小学校区の「ふれあい地域清掃」が終了しました。

(古田台小学校区 10月2日(日) 古田学区 10月29日(土)
山田小学校区 11月19日(土) 高須小学校区 11月26日(土))

今年度初めて全学区において、本校生徒の参加募集をお願いしましたが、多くの生徒が参加してくれ、どの地域清掃も一生懸命がんばってくれたとおほめの言葉をいただきました。また、4地区全てに参加してくれた生徒もいて、本当に感心しました。

これからも中学校として、地域貢献できる機会を増やしていきたいと思ひます。地域・団体の皆様、お世話になりました。これからもご指導・ご助言のほど、よろしくお願いいたします。

参加してくれた生徒のみならず、本当にありがとう！！
すばらしい気持ち・行動に心から感謝します！！

【学校生活】 2016-12-06 12:32 up!

取組の成果（効果）『自己肯定感の高まりと学校生活での活躍』

- 古田小学校区以外の小学校での清掃活動には初めて参加したが、地域の方から、「このようにたくさん子どもたちが参加してくれたのは初めてだ。ありがとう。」「地域が盛り上がってうれしい。」などの言葉を生徒にかけていただき、評価していただいた。一部の生徒は、自分の出身小学校区以外の地域清掃にも参加をしている。また、全ての地域の活動に参加した生徒もいた。
- このような生徒が学校生活の中でも中心となり、自ら進んで奉仕活動をする雰囲気を作っている。全校生徒対象の学校評価アンケートでは、「清掃活動において、自分の分担を落ち着いた態度で行うことができた。」の項目において肯定的な評価をした生徒が、7月には76.7%であったが、11月には83.7%に増えている。
- このことが、基本的な生活習慣に関わる項目において、肯定的評価をした生徒が、時間を守ることに6.4%、教室環境整備について0.5%、身だしなみを整えることについて3.0%増加したことに繋がっていると考える。
- さらに、わずかではあるが、「古田中は生徒がつくる学校であると思う」の項目の肯定的評価が0.4%、「学校に来ることが楽しいと思う」の項目の肯定的評価が2.2%増加したことにも、繋がっていると考える。
- 生徒が自ら進んで参加の意思決定をし、仲間とふれあい夢中になって清掃活動に参加したことが、地域で評価された。このことが参加生徒の自己肯定感を高め、学校生活での活躍につながっていると考える。

今後の展開『関係づくり』

- 本年度の取組は、中学校での単独の清掃活動を、校区の4小学校区に広げるものであった。生徒の積極的な参加を評価していただくことにより、生徒の豊かな心を耕すという観点で一定の成果があった。
- 今後は、地域との交流、小中の交流をより深められるような手立てを考え、さらに生徒が地域を愛し、地域からは頼りにされるような関係づくりを進めていきたい。

他校へのアドバイス『清掃活動の良さ』

- 清掃活動は、どの生徒もやり方が分かっている、「きれいになる」という成果が目に見えてわかりやすいという特性がある。
- 地域や小中の交流を深め、生徒の豊かな心を育むために、清掃活動は非常に有効な活動であると感じている。

指定校番号	28072	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合中学校	校長	小島 健作	生徒指導主事	高橋 秀昌
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『スーパーキラキラ大作戦』

取組のねらい『共感的人間関係の構築』

- ・小中学生と一緒に活動しふれあいと心の交流を深める。【共感的人間関係】
- ・中3には小学生をリードする行為で自己有用感が高まることを期待する。
- ・小学生は中学生のサポートに感謝と親近感を抱くことを期待する。

取組の具体的内容『小中連携プロジェクト、地域清掃活動』

- ・中3と小3・4が小グループをつくり、地域のゴミ拾いをする。
- ・事前に小中各校でグループをつくり、組み合わせる。
(真亀小 10 グループ 落合東小 18 グループ 落合中 28 グループ)
- ・事前に考えたゴミ拾いルートを中学生がリーダーシップをとって引率する。
- ・集合・解散は、各小学校グラウンドで行う。
- ・安全面での配慮をする。(教員の巡回、保護者への協力依頼など)



取組の創意工夫『笑顔キラキラ町はピカピカ』

- ・このスーパーキラキラ大作戦は、9年前に真亀小の子が町をきれいにするために「落合中学校のお兄ちゃんお姉ちゃんたちの力を貸してほしい」と頼みにきたことから始まりました。一緒にゴミ拾いや一緒に遊ぶことが、とても楽しかったと小学校の子ども達が喜んでくれました。今年で8回目ですが、小学生がとても楽しみにしてくれる一大イベントとなっています。
- ・両小学校の子どもたちと一緒にする唯一の行事となりました。
- ・児童に中学校入学後のビジョンを持たせることで、いわゆる中1ギャップを解消し、円滑に中学校生活に移行できるようにするため、児童と生徒の交流を深めるように仕組む。
- ・町をきれいにすることを通じて、勤労・奉仕の態度を養うとともに、中学生が、小学生の見本となることで、自己存在感を感じることが期待される。



取組の成果（効果）『小学生も中学生も安心感をもてるように！』



- ・地域の美化ボランティア活動として、落合中学校区にアピールすることができた。
- ・スーパーキラキラ大作戦の目的と清掃計画を知り、生徒自ら地域清掃活動計画を考えることができた。
- ・スーパーキラキラ大作戦で小学生と仲良くする術（コミュニケーションスキル）を身に付けることができた。
- ・事前に小学生が挨拶に来て、事後には、関わった小中学生が書いた「感謝の手紙」の交流ができた。

感謝の手紙」の交流ができた。

今後の展開『色々な行事で小中交流を推進する！』

スーパーキラキラ大作戦を皮切りに、毎年ではあるが地域のフレンドリーコンサート（落合中学校区の保育園から高校までの音楽発表会）・落合中学校合唱祭に行う3年生全体合唱の小学校での出前合唱などを行い、交流している。また、夏休みに小学生1・2年生の宿題のお手伝いとして、「サマースタディーサポート」のボランティアを行っている。今後もこれらの取り組みを推進していき、共感的な人間関係の確立と中学生の自己有用感を持つことのできる取組を進めていきたい。

他校へのアドバイス『小学校との事前打ち合わせをしっかりと！』

- ・スーパーキラキラ大作戦は、小学生と共に地域に出向いて清掃活動をするので、安全面を考慮して事前に打ち合わせを丁寧に行うことが大切です。また時間設定も無理のないように、小学生が集中して取り組めるように授業時間と合わせて行動できるように配慮することも大切です。



指定校番号	28075	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立国泰寺中学校	校長	三浦 義之	生徒指導主事	小田 実
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『あいさつ運動～ふれあい地域美化活動』

取組のねらい『小学生に安心感をあたえる』

「あいさつ運動」

- ・中学生が小学校に出向いてあいさつをする姿を見せることを通して、小学生に中学校入学に対する希望と安心感をあたえる。
- ・中学生に、学区の一員として生活を正しているという自覚と責任感を持たせる。

「ふれあい地域美化活動」

- ・児童生徒、保護者、地域住民が一つになって地域の美化活動を通し、ふれあいを深めるとともに、美しい環境を大切にする心を育てる。

取組の具体的内容『一つになって』

- ・中学生が4小学校に出向いて、朝のあいさつ運動に参加する。



- ・学区4小学校・1中学校にて、「あいさつ運動の標語」を募り、各校での最優秀賞を決定する。
- ・各校では、5名の最優秀標語をラミネートし、校内数カ所に掲示する。
- ・児童生徒、保護者、地域住民が一つになって、地域の美化清掃を行う。空き缶やゴミ拾い、危険な場所などの把握を行う。



国泰寺中学校区あいさつ運動

平成28年11月1日(火)～11月10日(木)

あいさつの輪を学校・地域に広げよう!

児童生徒の「あいさつ標語」の優秀作品

さあ開けよう 心のトビラ 一言で 本川小学校 六年 椋岡 栄吾 三年 檜垣 凌雅	少しだけ 勇気を出して 自分から 千田小学校 六年 歌谷 翼菜	あいさつは 地域をつなぐ かけ橋だ 竹屋小学校 六年 中川 一志	あいさつで つながる人の輪 元気な輪 森町小学校 五年 古家 里々夜
---	---	--	--

取組の課題・創意工夫『地域が一つになって』

「あいさつ運動の標語」の最優秀賞を受賞した児童・生徒を「ふれあい地域美化活動」の閉会式にて表彰する。閉会式には、児童生徒、保護者、地域住民、教職員が参加する。



取組の成果（効果）『希望と安心感』

- ・小学生とともに活動することで、小学生にとって中学校への入学に対する希望と安心感をあたえることができた。
- ・中学生には、先輩としての自覚ある行動、リーダーシップを発揮する場となり、自己存在感を高める機会となった。

今後の展開『仕組む』

- ・中学校で行う小学生の部活体験や出前授業（中学生が小学校に出向き、中学校紹介を行う）など、小学生との関わりをどんどん仕組んでいき、中学校を身近に感じさせていくとともに、中学校への入学に対する希望と安心感をあたえる。
- ・地域、保護者が中学生を見かけたときに、声をかけて頂くきっかけづくりと捉え、生徒が今後も地域の行事等に積極的に参加していける仕組み作りを進めていく。

他校へのアドバイス『生徒の自主性』

地域ぐるみの様々な行事での準備や打ち合わせ等は、地域の方・保護者・教員が中心となって行うが、当日の進行は、中学生に任せている。

そのため、中学生は生徒会が中心となって、自分たちの手で運営が出来るよう、自分たちの言葉で司会台本を作成したり、清掃用具の準備をしたり、当日の進行もしっかりこなすなど、自主的に動けるようになっていた。当日の進行は、とても立派なものであった。



指定校番号	28107	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立高宮中学校	校長	佐々木 生祐	生徒指導主事	北村 清
-----	-------------	----	--------	--------	------

取組事例名 『お年寄り訪問』

取組のねらい『キーワード 優しさ』

- 1 ボランティア活動を通して、「自分のしたことで人が喜んでくれた」「人の役に立つことができた」という喜びや達成感を持たせる。
- 2 お年寄りとのふれあいから、豊かな経験や生き方を学びよりよく生きていこうとする生徒を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 知る』

- 総合的な学習の時間の学習課題に沿った内容でボランティア活動を行う。
 (1年…地域の高齢者に係る課題 2年…地域の活性化に係る課題 3年…地域の福祉に係る課題)
- 1 開催要項の作成
 - 2 生徒及び職員実行委員会結成・計画への周知
 - 3 社会福祉協議会との連携
 - 4 75歳以上の1人暮らしのお年寄り訪問希望者を募る(往復葉書きを活用)
 - 5 第1回グループ会議(訪問計画の作成・訪問先へのはがき・留守宅用の手紙を書く)
 - 6 掃除用具・プレゼント等の準備
 - 7 前日の準備(準備物の確認)
 - 8 出発式
 - 9 訪問先での活動
 - 10 第2回グループ会議(振り返り…感想文, 掲示用の感想文, お礼のはがき)
 - 11 定時

取組の課題・創意工夫『キーワード 配慮』

- 取組の課題
- 1 年々, 訪問する家が減少傾向にある。
 - 2 受け入れる側(お年寄り)の気持ちの中に, 掃除や中学生との会話は楽しみであるが, 訪問されるという緊張感, 気遣い等の精神的な負担により, 訪問希望が減少傾向にある。
- 取組の創意工夫
- 1 総合的な学習の時間で学んだことをお年寄り訪問の体験で生かしている。
 - 2 社会福祉協議会の職員や民生児童委員さんのアドバイス, サポートにより, 中学生が活動しやすくなっている。

取組の成果(効果)『キーワード 感謝』

- 1 中学生にとってお年寄りと接する機会が少ない中で高宮町の高齢者の実態を知り, 訪問を通してお年寄りとの接し方やコミュニケーションのとり方を深く学ぶことができた。
- 2 人と優しく接することを身につけた。
- 3 お年寄りのニーズを理解して活動をしていた。
- 4 生徒の感想文より90%を越える生徒の満足度, 感謝の気持ち等, 学習の成果をみる事ができた。

今後の展開『キーワード 工夫改善と継続』

- 1 現在の実施方法を改善しつつ, 継続して行う。
- 2 各教科, 領域との関連を整理し, 学校生活全般の中で, 人との接し方, 優しさを考え, 身につけさせる。

他校へのアドバイス『キーワード 高齢者とのふれあい』

機会をとらえて, 高齢者とのふれあいがもてる活動を仕組んだらよい。

平成 28 年度 高宮中学校「お年寄り訪問」 活動の様子

民生児童委員さんを迎えての出発式



お年寄り訪問による活動（清掃活動）



お年寄りとのひととき



訪問させていただいたお家から
お手紙をいただきました！

まとめを掲示・振り返り

生徒作文 一部抜粋（『お年寄り訪問を終えて』）

お年寄りの方のお話を聞く中で感じたことが2つあります。1つは、お年寄りの方は、とても元気だということです。声も大きく、笑顔が絶えず、お話の絶えない方でした。お話を聞いて私も元気をもらうことができました。もう1つは、私達は周りに支えられていることを実感しました。それは、親戚の方が心配をして様子を見に来られたり、ヘルパーの方が、ご飯を作っているのを見ました。

今回感じたことを、今後の生活に活かし、周りの方々を大切にしていきたいと思います。



指定校番号	28109	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	原 克幸	生徒指導主事	赤松 智樹
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『本郷中校区クリーン活動』

取組のねらい『キーワード 地域貢献』

- ・奉仕活動を通し、自分たちが住んでいる地域を理解することや感謝の心を育む。
- ・地域の方に気持ちのよい挨拶をし、ゴミ拾いや掃除をすることで、地域の一員であることを再確認する。
- ・ゴミ拾いや掃除をすることで、環境を守ろうとする気持ちや、「できることをしよう」というボランティアの気持ちへの理解を深める。

取組の具体的内容『キーワード 主体的活動』

- ・本郷中学校校区、各地域の公園等の施設に拠点を置き、公園等の施設およびその周辺を清掃する。
- ・生徒の住所をもとに全校生徒を12の縦割り班にし、リーダーと担当教員を決める。
- ・リーダー会を行い、それぞれの班の中で小グループをリーダーが決め、清掃ルートを決める。
- ・前日に各地域で事前ミーティングをし、清掃グループのメンバー・清掃ルートの確認を行う。
- ・当日はリーダーの司会で運営を行う。
- ・ゴミを生徒自身が分別する。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 地域との連携』

- (課題)
- ・道徳の地域公開と同じ日に行うので地域貢献と関連した授業内容ができれば良かった。
 - ・リーダーの中に異学年を入れて取組を行う。
 - ・活動を発表する場面設定。
- (創意工夫)
- ・掃除道具(ひばさみ)を生徒全員分用意し、清掃したことで積極的にゴミを拾うことができた。
 - ・主体的な活動となるよう、班の中で小グループや清掃ルートをリーダーに決めさせた。

取組の成果(効果) 『キーワード 奉仕の心の育成』

- ・地域貢献の意識が高まった。
 - ・地域の方から、お礼のことばを頂いた場所もあり、地域の方とコミュニケーションが図れた。
 - ・道徳地域公開と兼ねて取り組むことができた。
- 【学校評価アンケート結果(全学年)】
- ・誰かのために役立っていると感じるときがある。または、将来、誰かの役に立つことができると思う。
72% (7月実施) ⇒ 76% (12月実施)
 - ・地域の行事やボランティア活動に参加している。
50% (7月実施) ⇒ 62% (12月実施)

以上のアンケート結果から、肯定的評価を上げることができたと言える。また、地域のボランティア活動に自主的に参加する生徒も現れ、学校での活動が生活に生かすことができている。

来年度は、保護者・地域の方と共に活動を行うことにより、より一層生徒の充実した活動になるように取り組んでいく。

今後の展開『キーワード 創意工夫』

- ・生徒の意見を取り入れ、より一層主体的な活動になるようにしていく。
- ・保護者や「本郷中学校を支える会」など地域の方々と連携し、地域協働を意識した活動となるよう工夫する。
- ・地域貢献と関連した授業内容（教材）の開発を研究する。
- ・活動の回数を増やすことを検討する。
- ・小中合同で開催を検討する。
- ・活動の発表の場を設定する。

他校へのアドバイス『キーワード 細かい指導』

- ・事前計画、打ち合わせなど細かい指導を行う。
- ・校外で生徒が頑張っている様子を見てもらうことで、地域の方からの信頼を得る。

活動の様子



校番	95	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	中原 朗	生徒指導主事	高橋 利宜
-----	--------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『インターンシップ』

取組のねらい『社会人基礎力の向上』

2 学年の全生徒がインターンシップに参加することにより、様々な業種における就労体験等とおして、進路意識を向上させるとともに、望ましい職業観を養い、勤労観の醸成を図る。

取組の具体的内容『生徒の自主性、主体性を育む』

7 月上旬の 3 日間、福山市内の 100 以上の事業所等においてインターンシップを実施している。就労体験先を決定するに当たっては、生徒が自らの進路希望と照らし合わせ、希望する分野の事業所等を自分で探し、自ら電話等により連携をとることで、生徒の自主性・主体性を育むことを目指している。

実際に、進路意識の高い生徒に対してはもちろん、進路意識が比較的希薄な生徒についても、自分自身を深く見つめ直し、将来のなりたい自分について考え、自分自身で行動する機会となっている。



取組の課題・創意工夫『生徒の自己開拓と教師の支援』

生徒が実習先と連携するための事前指導として、相手先に失礼等がないよう、言葉遣いやメモ等について十分に指導するとともに、連携の際には、必ず教職員が傍に付き添い、生徒に連携をとらせている。

また、実習中は、教職員で分担し、全事業所を訪問し、生徒の様子について把握するとともに、今後の求人状況についても連携をとり、就職先の新規開拓にもつなげている。実習後の事後指導として、礼状の作成、成果発表会等を実施している。

課題としては、行事計画等の見直しを進め、他の学校行事等とのをさらに深め、教育効果をさらに高めていくことが挙げられる。

取組の成果（効果）『進路意識の向上』

生徒の資格取得率が向上し、今年度は3年生の全生徒が何らかの資格を取得することができている。また、高度資格取得や全国商業高等学校協会主催の検定試験1級を複数取得している生徒も年々増加してきている。

就職内定率も向上しており、早期に就職内定を受ける生徒の数も増加している。就職希望者は、早くから就職に向けての行動をとり、今年度は、9月16日からの就職試験に98.7%(昨年度95.28%)の生徒が受験し、内定率は84.0%(昨年度69.5%)であった。

今後の展開『文化祭等の学校行事のさらなる充実』

インターンシップを充実させることにより、生徒が校外で活躍する場を提供し、その姿を地域社会にアピールすることができている。今後は、文化祭等で販売実習を実施するなど、地域の方々を積極的に校内に招き入れる場を設け、本校が地域からより愛される存在となるよう、教育活動の有機的なつながりを深めたい。

他校へのアドバイス『全員参加』

数年前は、インターンシップは全員参加体制をとっておらず、多くの生徒が実習に参加せず、学校に残って自主学習をせざるを得ない状況があった。実習に積極的に取り組む生徒より、実習に消極的で、学校に残る生徒への指導に多大なエネルギーが必要であり、また自主学習中に問題行動が発生することさえあった。

全員参加体制を整えることにより、上記の事象がなくなるとともに、生徒同士の絆が深まったり、進路意識や所属感が高まるなど、学校生活をさらに大切にしようとする気運が高まっている。